

第2回アントレプレナーシップ研究会

主催：科研費基盤研究（C）「ポスト社会主義国における経営主体のアントレプレナーシップに関する文化人類学的研究」

プログラム

14：00-14：30 趣旨説明
後藤正憲（北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター）

14：30-15：40 報告1.
「カースト役割から仕事の区分へ：ネパールの食肉公社設立に見るアントレプレナーシップ」中川加奈子（国立民族学博物館）

王制廃止とグローバル市場への包摂を受けて大きく揺らぐネパールのカースト

社会では、カーストに基づく役割分担はいかなる変貌を遂げるのか。本報告では、食肉市場の急速な拡大を受けて、伝統的に屠

畜や肉売りを担ってきた「肉売りカースト」の人びとが食肉公社を設立するに至るまでのプロセスを検討する。彼らのカースト社会と資本主義社会との狭間での苦難と挑戦を、アントレプレナーシップという観点から考察してみたい。

コメンテーター：佐久間寛
（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所）

15：40-15：50 休憩

15：50-17：00 報告2.
「アントレプレナーシップを発動させるウズベキスタンの絨毯」宗野ふもと（北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター）

ウズベキスタンでは、絨毯が所有者の生活状況に応じて、持参財、生活用品、商品として用いられる。その絨毯を売ることは、しばしば

貧しさと結びつけて語られてきた。しかし、最近では絨毯を外国人観光客へ販売し、経済的成功を収める家族が現れた。彼らがいかに一家の生計を支えうる換金価値を絨毯

に見出したのかを通して、絨毯が持つ価値の多様性がいかにアントレプレナーシップを発動させるのかを明らかにしたい。

コメンテーター：深田淳太郎
（三重大学）

17：00-18：00 全体討論

18：30- 懇親会

参加ご希望の方は、事前にご連絡ください。
連絡先：後藤正憲
goto@slav.hokudai.ac.jp

研究会趣旨

日本語で「起業家精神」と訳される entrepreneurship は、市場環境でビジネスに携わる個人の経営能力や資質として捉えられる。20世紀末に経済体制の転換を経た国々では、アントレプレナーシップを発揮する起業家の現れが、経済体制の移行の象徴とみなされることが多い。しかし、実際に経済活動が行われる個々のケースに着目すると、社会的枠組みやその中で結ばれる行為者同士の関係が、アントレプレナーシップの発動に大きく関わっていることが分かる。つまりそれは、起業家個人の内面（「精神」）に留まるものではなく、起業家と環境世界の相互作用の連鎖の中で捉えられる普遍的な現象であり、同時にその場の特定の状況から生み出されるローカルな特殊性を具えたものでもある。本研究会は、アントレプレナーシップが社会生活の様々な関係性に基づいて形成される状況を、起業的な活動の個々の現場から照らしたすことを目的とする。